

岡山ハルビン会会報

『わが心のハルビン』記事目録

佐藤仁史、浅野慎平、井崎伶香、大賀友果梨、奥田有理、
熊野壮真、久保篤史、笹川純平、佐藤珠貴、坪井俊樹、
西村悠作、真門美里、弓田潤

解題

1 整理までの経緯

「満洲の記憶」研究会では、2013年7月に満洲帰国邦人団体が刊行した種々の会報の調査を国会図書館で行った。その際調査者の関心を引いたのが、『満鉄会会報』『大連会会報』『長春』といった日本各地に会員を擁し、長期間にわたって刊行された団体の会報以外に、二つのハルビン会の会報、すなわち、岡山ハルビン会による『わが心のハルビン』と東京ハルビン会による『東京ハルビン会報』であった。というのも、上述の三会報がニューズレター的な装いであったのに対し、年刊として刊行された後二者には、多くの回想記が収録されており、また会として明確な自己主張をしていることが印象的であったからである。これらの内容に興味をもった研究会の有志は、そのうち『わが心のハルビン』に掲載されていた元事務局の住所に手紙を出して関連資料

の有無を尋ねたところ、かつて事務局長をつとめた故立岡皓男氏(1924—2012年)のご家族より返信をいただき、2013年12月7日に訪問する機会を賜った。

岡山ハルビン会事務局は岡山市北区表町二丁目1-50の靴のタツオカ2階に置かれていた。靴のタツオカは県庁前や田町周辺に広がる繁華街の中心に位置しており、集会の便もよかったことが推測される。2階の窓横には現在でも岡山ハルビン会の看板がかけられている。故立岡皓男氏が遺した関連書籍や書類は、ご息女立岡洋子氏とそのご子息立岡海人氏によってほぼそのまま靴のタツオカ2階と自宅に保管されていた(どの程度の価値があるか判断できず、処分することも検討したという)。調査によって確認できた範囲で述べれば、保管されていた故立岡皓男氏の史料群は、岡山ハルビン会会報とその元になった原稿の一部、石頭会(関

東歩兵石頭予備工官学校) 関係資料、満洲電業株式会社関係資料、シベリヤ抑留関係の資料などからなる。このなかには、多くの写真、関東歩兵石頭予備工官学校第十三期甲種幹部候補生法被、様々な旗幟、中国残留孤児支援募金の箱などモノ資料も含まれており、山口淑子が岡山ハルビン会に宛てた色紙がひときわ目を引いた。

これらの資料群は現在研究会で預かって目録を作成している最中である。このうち、『わが心のハルビン』については、佐藤仁史が一橋大学において担当する2015年度社会史史料講読Ⅱにおいて記事目録を作成し、主要記事の読解を行った。以下はその成果の一部である。

2 内容の紹介

1977年に創刊号が発行された『わが心のハルビン』の毎号の巻頭には、「岡山ハルビン会設立の趣旨」が掲載されている。それを略記すれば、(1) 四季報の発行、(2) 互いの消息の確認、(3) 北方領土返還をはじめとする国民運動の展開、(4) 記録としての体験記の出版、である。これは本誌にとって非常に重要な意味を持っている。なぜならば、(1)(4)は直接本会報について言及したものであるし、(2)(3)で挙げられた趣旨は、本誌の数多くの体験記を読み解いていくと、会員に根付いた記憶のあり方を見て取ることができるからである。

本誌に体験記などを寄稿した会員がハ

ルビンを中心とする満洲において過ごした記憶は非常に多様である。満鉄の職員であった者、医師であった者、技術者であり戦後は八路軍に留用された者、シベリアでの抑留生活を送った者など、肩書のみをとっても多様である。

加えて、彼らを取り巻いた環境は更に多様であった。例えば民族関係について言えば、中国人や白系ロシア人、朝鮮人などとの多様な人間関係が当時ハルビンにあったことに言及されている。すなわち、五族協和は関東軍が作り上げた大義名分に過ぎなかった一方、ミクロな個人の中の生活の中には民族同士の「共生」も同時に存在していたことが見て取れるのである。

以上は表層的な部分を例示したに過ぎないが、個々の会員の記憶は相当異なっている。したがって本会の意義は、学校の同窓会誌のように、ある程度限定した範囲にとどまる思い出を互いに共有して回想していくというより、異なる体験・記憶を有する会員たちがそれらを記録として残していくという意味合いが強いように思われる。彼らを繋いだものは思い出の共有ではなく、自分たちの経験の記録を残して「国民運動」の土台とするというような意志であった。本紙をを通読した上で、設立の趣旨を読み返すと、この点が会員に共有されていたことが浮かび上がってくる。なお、ハルビンに住んだ当時の思い出以外の話題もしばしば登場する。中国残留孤児の問題について言

及する記事、1970年代以降にハルビンに再訪した際の印象を綴る記事も多い。

『わが心のハルビン』は、1995年にvol. 20を持って廃刊となった。最終号では廃刊への無念さを綴る記事も多い。この会報が2世や3世への継承を遂げることにはなかった。創刊号から最終号までを通読してみると、寄稿者はおおむね固定されており、年月を経るにしたがって記事の数が減少している。後期においては、その穴埋めとして他団体の会員の記事の引用なども見られた。

寄稿者がおおむね固定していたという点は本会報の特徴であり、これは次世代への継承に悩んだということと同時にしめしているが、この特徴により時間がたつにつれて、個々の会員の思い出のありかたがどのような変化していったかということを見ることができる。初期の記事は

ハルビンでの思い出を詳細に、ところどころ感情的に綴る文体が目立ったが（特にソ連軍から受けた被害についての言及において、怒りの感情が目立つ）、後期に向かうに従って、淡々とした文体に変化していく。あるいは、初期から後期にかけて、連続した回想録を残した杉本保之介氏のように、長大な記録を残した者もいる。いずれにしても、vol. 1からvol. 20を通読するによって、一個人の記憶のあり方の変化を追跡できる点も、本会報の資料的な価値を高めているといえる。

謝辞

故立岡皓男氏資料の整理と目録作成に快諾いただいた立岡洋子氏と立岡海人氏の両氏にはここに記して衷心の謝意を示したい。

凡例

- ・本目録は、帰国邦人団体の岡山ハルビン会が発行していた『わが心のハルビン』1～20号の記事目録である。当該会報の発行期間は1977年3月より1995年11月までである。
- ・本目録では、会報各号ごとに記事の情報を掲載頁、記事名、筆者の順に記載した。記事名、筆者の両項目は、基本的に会報記事内の表記をそのまま記載しているが、記事中の固有名詞以外は旧字体を新字体に変更している。
- ・お詫び・訂正記事、会費納入の案内記事、会計報告、執筆者の肩書きや所属、広告などは紙幅の関係上、本目録の記載対象から除外した。

目録

vol.1 (1977年3月発行)		
頁	記事名	筆者
1	岡山ハルビン会設立の趣旨	
2	岡山ハルビン会年譜	
2	耐えた力が行く	
3	消息	高地トミエ
5	消息	有森秀吉
6	消息	岩倉玉子
7	消息	川口和子
7	消息	今城松二郎
8	消息	猪木金人
10	消息	尾原繁
11	消息	大高武夫
12	消息	小野田貞子
13	消息	加藤かね子
13	消息	鴨矢久雄
14	消息	駒井収平
15	消息	桜井武士
15	消息	笹野二郎
16	消息	佐々木岩太郎
17	消息	清水良一
17	消息	白岩良平
18	消息	園田正文
18	消息	谷口廉
19	消息	谷口栄治
21	消息	武本博
21	消息	田口秀実・豊子
21	消息	田辺三郎

22	消息	永井時夫
24	消息	永友作雄
24	消息	野村瑞
25	消息	原田清
25	消息	稗田千代子
25	消息	稗田良夫
27	消息	稗田実
29	消息	広岡清美
29	消息	古松富美江
30	消息	三木郁三
30	消息	村岡英一
31	消息	室山花子
32	消息	村尾嶺上
33	消息	守井婦喜子
34	消息	森恵美子
34	消息	山本春枝
35	消息	山本雄吉
37	消息	横畑昌訓・みち
37	消息	渡辺昭子
38	図書閲覧案内	
38	あとがき	村岡英一

vol. 2 (1977年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	まえがき	編集委員
	祝「思い出と消息誌」発刊	全国ハルビン会会長
		中村福造
1	岡山ハルビン会設立の趣旨	
2	岡山ハルビン会年表	
2	耐えた力が行く	
3	報告(1) 岡山ハルビン会の組織・規約・役員構成	
5	報告(2) 福田総理大臣宛上申書	

7	報告 (3) 友よ安らかに	
8	特報 娘は中国で生きていた	
9	就任挨拶	村岡英一
10	消息	亀山登美子
11	消息	高地トミエ
12	消息	有安輝男
13	消息	岩倉玉子
17	消息	猪木金人
23	消息	江草純子
23	消息	尾原繁
24	消息	大高武夫
26	消息	岡賢二
28	消息	河井善二郎
29	消息	北村武男
32	消息	酒井竹子
34	消息	笹埜二郎
35	消息	白岩良平
36	消息	白石賀代子
37	消息	数枝木寛
38	消息	谷口栄治
39	消息	田辺三郎
41	消息	竹内幸郎
42	消息	辻順子
43	消息	永井時夫
55	消息	稗田千代子
56	消息	稗田良夫
58	消息	稗田実
59	消息	村岡英一
63	消息	守井婦喜子
64	消息	山本雄吉
66	消息	山谷友夫
66	消息	横山斧吉

67	消息	渡辺昭子
67	図書閲覧案内	
67	図書斡旋	
67	東海ハルビン会編 哈爾浜グラフ案内	
68	あとがき	編集委員
69	会員名簿 (別紙)	

vol.3 (1978年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	まえがき	編集委員会
	目次	
1	岡山ハルビン会設立の趣旨	
2	岡山ハルビン会年表	
3	岡山ハルビン会秋季総会報告 (昭和五十二年度於成田屋光利店)	
3	52年秋季総会報告	稗田良夫
3	東海ハルビン会岐阜大会参加報告	岸本佳吾
4	キリンビール瀬戸工場見学報告	笹埜二郎
5	全国哈爾浜会長崎大会の報告	村岡英一
6	全国ハルビン会々則 (昭和53・6・10)	
7	困窮者の救援活動について	竹内幸郎
8	書翰	高地とみ恵
9	書翰	坂上良知
10	書翰	後藤春吉
11	思い出の記	有森秀吉
13	破われた眼鏡	猪木金人
17	消息	江草純子
17	思い出の記	尾原繁
18	思い出の記	岡賢二
24	思い出の記	大高武夫
26	思い出の記	岸本佳吾
28	大陸での私の人生記録 (その一)	笹埜二郎

30	松花江の思い出	数枝木寛
31	第二の故郷ハルビン	杉本保之助
35	ペチカ	谷口栄治
36	北満における私の足跡	田辺三郎
38	「私のハルビン」とは	竹内幸郎
40	ハルピン地区周家の思い出	永井時夫
49	満州の思い出より	永井時夫
49	思い出の記	中島達二
60	消息	番遼子
62	地段街より馬家溝まで	稗田千代子
63	「いきの坂」	平松民恵
63	思い出の記	福島昇
66	思い出の記	堀博
67	消息	三木郁三
67	前承	村岡英一
75	ハルビンの初冬	森恵美子
76	思い出	山本雄吉
78	ハルビンの思い出	横畑みち子
79	思い出の記	頼経章
82	あとがき	
	会員名簿	

vol. 4 (1979年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	まえがき	
1	岡山ハルビン会設立の趣旨	
2	岡山ハルビン会年表	
4	報告事項 (1)岡山ハルビン会 53年度秋期総会報告	
4	報告事項 (2)ハルビンを映画で見る会	
5	報告事項 (3)東海ハルビン会出席報告	村岡英一
5	報告事項 (4)龍爪会のご紹介と出席報告	村岡英一
6	哈爾濱旅行記	田中武熊

12	消息	後藤春吉
13	思い出す人々	猪木金人
16	追想記	岩倉玉子
17	消息	岡賢二
23	消息	尾原繁
25	消息	奥村富子
25	消息	大高武夫
31	思い出のハルビン訪問記	大岩節子
40	五族の墓	北村武男
40	一枚の風景画について思うこと	小林武俊
42	大陸での私の人生記録（その二）	笹埜二郎
44	太陽島の夏の思い出	白岩良平
45	ハルビンから熱河へ	杉本保之助
52	洪水の追想	数枝木寛
54	消息	高地とみ恵
55	バザール	谷口栄治
56	「私のハルビンとは」	竹内幸郎
58	あゝ大陸や	富永恭子
59	随感	永井時夫
62	雑感(山狗と綿袍八年)	中島達二
66	私のハルピン	檜崎敬一
67	恩師を語る	稗田千代子
69	八路軍が来た安東を逃れて瀋陽へ脱出	稗田良夫
72	消息	稗田実
73	愛の証明	平松民恵
80	消息	前野霽子
80	「ミンクス」の旅	丸川潔
81	護国の英霊に捧げるの道	村岡英一
84	万波白堂先生のこと	山本雄吉
89	会員消息	
89	消息	入江静江
90	困窮者の救援活動について	竹内幸郎

92	ハルピン小唄	
93	中国からの帰国者 追報	
94	あとがき	
95	会員名簿	

vol.5 (1980年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	まえがき	
1	岡山ハルビン会設立の趣旨	
2	岡山ハルビン会年表	
3	訪中旅行の計画から実行まで	村岡英一
7	日中友好の翼に参加して	尾原繁
15	涙のハルビン	竹内幸郎
20	訪中旅行に参加して	尾原淑子
21	訪中旅行見聞記	村岡英一
30	北京の景、哈市の景	平松民恵
30	中国見たまま聞いたまま	岩倉玉子
31	「帰国者の消息と救援について」	竹内幸郎
32	全国市長会宛の礼状	村岡会長
33	日中平和友好の翼	岡山ハルビン会訪中団
35	ハルビン在住孤児の消息コーナー	
51	不思議なご縁	浜恒夫
51	三十五年ぶりに尋ね人を捜しあてゝ	東儀文孝
52	消息	大月敏代
53	哈爾濱引揚前後	数珠木寛
55	思い出の記	稗田千代子
56	八ミリを観て	猪木金人
58	慟哭再来中華民国	平松民恵
58	岡山ハルビン会の中国訪問によせて	正宗武男
60	満洲こぼれ話	永井時夫
75	撫順の近況	横谷豊吉
76	熱河省の大平房子	杉本保之助

81	大陸での私の人生記録（その三）	笹埜二郎
82	長春の孤児 郭秀珍さんのこと	大岩節子
85	痴人の思い	丸川潔
87	キタイスカヤ	谷口栄治
88	終戦後の一番永いよること	大高武夫
91	春季集会の報告	有森秀吉
92	憶い出の記	横山斧吉
94	私にとって満鉄は何であったか	田辺三郎
96	防衛議論	稗田良夫
99	禁煙十年	山本雄吉
101	全国ハルビン会大会出席報告	大高武夫
104	昭和五十四年秋季総会	村岡英一
106	残留孤児慰問募金芳名一覧	
107	保険による会基金協力者名簿	
108	あとがき	
109	名簿	
116	会計報告	

vol.6 (1981年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	まえがき	
3	岡山ハルビン会設立の趣旨	
4	岡山ハルビン会年表	
5	五十五年度秋季総会報告	稗田良夫
6	五十六・春季集会の報告(永友記)	永友作雄
8	七周年を祝って	木村睦男
8	創立七年に寄せて	平沼赳夫
9	岡山ハルビン会創立七周年によせて	片山仁
9	周鳳英(42才)さんと三人の姉さんとの再会	金井喜美
11	一次帰国孤児を大阪に訪ねて	尾原繁
12	帰国者交流激励会について	数枝木寛
14	ご紹介	会長

17	洛陽市長表敬挨拶記（村岡記）	
19	第二水曜会のこと	会長
19	会の活動資金について	会長
21	会員・客員の便り	児玉廉平
21	会員・客員の便り	新田律六
22	会員・客員の便り	羅仙樵
22	会員・客員の便り	金丸ひさ
23	会員・客員の便り	大田原節子
23	会員・客員の便り	江草純子
24	会員・客員の便り	宮野美智子
24	会員・客員の便り	高地とみ恵
25	会員・客員の便り	竹内幸郎
28	会員・客員の便り	編集部
28	会員・客員の便り	編集部
28	会員・客員の便り	明日素玄尼
29	会員・客員の便り	山本慈昭
29	雑感	小林武俊
31	思い出の記	岡賢二
37	悲しかったハルピン時代と悲しい思い出の街ハルピン	立岡皓男
39	籠城	谷口栄治
40	北方領土問題について	笹埜二郎
41	怨念…北方領土①	村岡英一
47	満州こぼれ話（その二）	永井時夫
55	ハルピンからの討匪行	杉本保之助
59	「北方領土の日」に思う	村岡英一
61	書翰	後藤春吉
62	終戦に日に憶う	数枝木寛
64	日中友好（九州）の船旅に参加して	杉山清太郎
66	思い出	尾原繁
68	ハルピンの思い出と消息について	稗田千代子
68	無題（雑満州）	田辺三郎
71	嗚呼満鉄	丸川潔

72	日記代りの漢詩	山本雄吉
74	随想	岩倉玉子
75	ロシアで会った本との再会—ラーゲリ（露語で収容所）の回想 其の四一	猪木金人
77	如塵放言録	永井時夫
80	追憶	小野菊恵
87	ポートピア'81で思う	茂渡志満代
88	昔のハルビン・今の東北	城造
89	追憶	長尾喜久治
92	敗戦後引揚までの苦難の日日 ◎招かざる客の来訪 別記 残留孤児について思うこと	大高武夫
98	山陽新聞「ちまた欄」転載	横山斧吉
100	養父母を岡山に迎える蜂谷さん一家	
101	慟哭のハルビンへ（一）（或 ノートより）	平松民恵
111	ハルビン懐古	鳥岡利導
112	「岸壁の母」死す もうひと月生きていてほしかった	椋代孝
117	満洲事変をかえりみて	稗田良夫
120	ハルピン会入会の動機と私の決意	藤原武志
121	日中孤児問題連合会に入会するの件	会長
124	岡山ハルビン会会則	事務局
126	保険による会の基金への協力者名簿	事務局
127	あとがき	編集委員一同
128	会員名簿	
134	役員名簿	
135	客員名簿	
136	本会に御支援下さった方の御芳名	
141	会計報告	
142	旧満州国全図	

vol.7 (1982年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	目次	

3	まえがき	
4	岡山ハルビン会設立の趣旨	
5	岡山ハルビン会年表	
7	五十六年度秋季総会報告	稗田良夫
11	57・春季総会の報告	事務局
13	岡山ハルビン会備前支部創設	笹埜二郎
14	七号紙の発行を祝って	木村睦男
14	岡山ハルビン会創立八周年によせて	平沼赳夫
14	中国東北地方友好の旅	数枝木寛
21	中国友好の旅を終へて私の感想	山本春雄
22	追憶と友好の旅を終えて	林義正
26	第二次訪中団に参加して	石原常雄
30	中国東北地方の追憶と友好の旅に寄せて	権藤良男
34	訪中旅行の印象	数枝木寛
36	街頭募金の実施について	村岡英一
38	第二回中国残留孤児集団招待について	平松民恵
40	第二次帰国孤児を迎えて	尾原繁
43	中国残留及帰還孤児の消息	事務局
43	中国残留及帰還孤児の消息	永井時夫
44	中国残留及帰還孤児の消息	谷本日上
45	中国残留孤児の詩「おたっしゃですか。お母さん」	平松民恵
45	引き揚げ家庭に“お年玉”を	羽根岡伝治
46	訪日残留孤児を迎え	平松民恵
46	帰国者交流激励会について	尾原繁
48	中国派遣日本語教師の壮行会	村岡英一
49	熟年のたのしみ waley と李白（近況報告に代え）	猪木金人
52	祖国を恋いて	植野常子
52	私と満洲そして哈爾濱 あとがき 随想	大高武男
57	思い出の記（2）	岡賢二
64	思い出の糸をたぐりて	金井喜美
69	ハルビン会に入会させて頂いて	河口豊
70	ふれ合う心をもとう	佐上静夫

71	ソ満国境の討匪	杉本保之助
74	ハルピンの幽な想い出	杉山清太郎
75	義勇軍訓練生の終焉(1)	竹内幸郎
80	私の在満記	頓宮一郎
81	軍歌に憶う	永井時夫
95	世相談義	稗田良夫
100	充実の年 私の一九八二年	福田義矩
103	辺境の地のある青春の記録	藤井幸男
107	「言葉アラカルト」 明治・大正の郷愁	丸川潔
110	「湊川隊」始末	椋代孝
117	一時局随想― 現下の教科書問題	村岡英一
122	ソ連 恐るべし (北方四島に寄せて)	猪木金人
123	国旗を掲げよう	佐上静夫
124	「台風の高野山詣で」	竹内幸郎
128	如塵放言録 (第二回)	永井時夫
130	返せ「北方領土」	稗田良夫
133	戒厳令解除宣言	村岡英一
136	噫北方領土	永井時夫
139	長崎大水害に際しお見舞金贈呈の件	事務局
140	岡山ハルビン会々則	事務局
141	保険による会の基金への協力者芳名簿	事務局
142	あとがき	編集委員一同
143	会員名簿	
150	役員名簿	
151	客員名簿	
152	本会に御支援下さった方の御芳名	
157	募金収支明細表	
158	会計報告、6号誌収支決算書	
159	旧満洲国全図 (昭、二〇年現在)	

vol.9 (1984年11月発行)		
頁	記事名	筆者

	目次	
1	まえがき	会長
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会年表	
6	岡山ハルビン会第十回年次総会報告	稗田良夫
7	岡山ハルビン会第十回年次総会会長挨拶	村岡英一
9	第七回全国ハルビン会岡山大会	
10	昭和五十八年三月十一日官報の一部記載	
12	岡山ハルビン会によせて	平沼赳夫
12	岡山ハルビン会によせて	松本一
13	終戦 詔勅	
14	幻の都、ハルビン案内	下里猛
31	中国残留孤児救援街頭募金報告	杉山清太郎
33	津山地区に於ける第二次街頭募金の報告	杉山清太郎
35	中国残留日本人孤児問題に思う (続)	椋代孝
40	橋のない河 (続)	平松民恵
48	人生の黄昏に想ふ	大高武夫
54	全国ハルビン会に思う	谷口栄治
55	スターリンの泣き面	猪木金人
58	懐かしいハルビン時代	石原常雄
61	わたしがハルピンに住んでいたころの白系ロシヤ人とソ連軍 将校の親切	中島達二
68	満州辺境の点描	数枝木寛
70	五丁の小銃	善木武夫
74	思い出は泉の如く	正宗武男
77	残留孤児になったかもしれない	石破ますみ
78	世相談義	稗田良夫
81	義勇軍訓練生の終焉	竹内幸郎
89	クアラムプール・シンガポールの旅	小野展毅
95	めぐり逢い	甲谷和代
96	第五次来日孤児歓迎の事ども	島岡利導
97	ニュース	郡司彦

99	昭和 59 年度岡山県帰国者友の会自立更生研修会参加	村岡英一
100	全国ハルビン会岡山大会開催さる	
103	一片のはがき	村岡英一
104	謝意表明	村岡英一
105	岡山ハルビン会々則	
106	あとがき	田辺三郎
107	会員・役員・客員名簿	
116	会計報告	
117	全国ハルビン会岡山大会収支	
118	募金勘定入出金明細表	
122	保険による会の基金への協力者名簿	
123	旧満州国全図	
124	残留孤児救援 協賛広告	

vol. 10 (1985 年 11 月発行)		
頁	記事名	筆者
1	目次	
3	岡山ハルビン会設立の趣旨	
4	岡山ハルビン会年表	
8	岡山ハルビン会第十一年次総会報告	椋代孝
9	岡山ハルビン会創立十一年次総会挨拶	村岡英一
10	十一年の歩みと今後の岡山ハルビン会	村岡英一
27	回顧（北満からの引揚を想う）	佐上静夫
33	中国残留孤児（高見氏親子）帰国後の活動状況について	大高武夫
36	「帰国者友の会」に招かれて	山本雄吉
37	出逢	杉本保之助
43	中国残留孤児の生まれし原因と将来	山本壽雄
46	満洲二十年間の思い出と体験	佐能静子
47	満鉄の主要駅にあった思い出の「スタンプ」	金井喜美
50	或る戦争未亡人からの手紙と姚慧彬さんからの便り	大高武夫
59	奇遇	中郷三己枝
72	記憶ちがい	谷口栄治

72	思い出の哈爾濱	片岡靖子
74	満洲時代の思い出	小西方一
74	師走の街頭に立って	林義正
75	ソ連引揚者四十周年全国大会に向けて	猪木金人
76	大地血に染む磨刀石（世界日報紙上の一部）	立岡皓男氏提供
78	満洲辺境の点描	数枝木寛
80	あれから四十年	小野きく恵
83	中国思い出の旅を終えて	横山斧吉
84	終戦後引揚げまでの私の体験	国府賀年生
86	残留孤児訪問記	鳥岡利導
89	李鵬さん、こんにちは	方尾正子
90	随想	永井時夫
91	漢詩日記	山本雄吉
101	世相談義	稗田良夫
102	岡山県指定の天然記念物「宗堂桜」について	笹埜二郎
104	孫呉慕情	平松民恵
105	香港にて深圳を想う	杉山清太郎
108	日中友好青少年サマーキャンプに参加して	大高武夫
112	立ち小便	林義正
113	永住帰国した残留孤児を招いて納涼の夕	椋代孝
114	岡山ハルビン会会則	
115	あとがき	田辺三郎
116	会員名簿	
124	会計報告	
125	募金勘定人出金明細表	
138	旧満州国全図	
139	残留孤児救援 協賛広告	

vol. 11 (1986年11月発行)		
頁	記事名	筆者
1	目次	
3	岡山ハルビン会設立の趣旨	

4	岡山ハルビン会年表	
9	岡山ハルビン会第十二回年次総会報告	椋代孝
10	中国残留孤児援護基金協会理事坂口氏よりの御便り	杉山清太郎
10	北満の曠野に眠る吾子を偲んで	那須道子
20	残留孤児に馳せる思い	小西方一
20	随想	大高武夫
30	随想 娘と私の再会	猪木金人
31	御伽噺	中郷三己枝
34	思い出は泉の如く（其の三）	正宗武男
36	残留孤児に想ふ	鳥岡利導
37	母の眠るチチハルをたずねて	片尾正子
41	「随想」 梅輯線の思い出と好太王碑	杉山清太郎
45	懐しの中国七虎力再訪の旅	小野菊恵
51	北海紀行－北方領土奪還を夢見て－	村岡英一
62	犀星とハルビン	谷口栄治
63	五十五年の歩みと中国旅行	山本寿雄
67	悲喜交々の七虎力訪問	藤原武志
68	訪華四方八方の記	林義正
72	中国思い出の旅に参加して	尾原繁
76	今日この頃の心境	笹埜二郎
76	「齢」七十六歳の盛夏に想う	田辺三郎
79	満鉄新入社員の便り	数枝木寛
80	随想	佐上静夫
81	随想 中国詩人の白楽天のこと	佐上静夫
83	引揚当時の思い出	片岡靖子
84	岡山ハルビン会会則	
85	あとがき	田辺三郎
86	会員名簿	
94	60年度会計報告	
95	募金勘定入出金明細表	
110	当初よりの募金収支明細表	
113	旧満州地図	

115	残留孤児救援 協賛広告	
-----	-------------	--

vol. 12 (1987年11月発行)		
頁	記事名	筆者
2	会設立の趣旨	
3	会則	
3	会の年表	
8	第十三回年次総会報告	村岡英一
10	昭和六十一年度会計報告	尾原繁
14	中国残留孤児救援募金活動末記	村岡英一
18	孤児救済のバザー	苫田郡鏡野町
11	昭和六十一年度募金入出金報告	尾原繁
19	故人と語る	村岡英一
36	試行錯誤の時代	岩崎健亶
40	ハルビンの思い出	杉本保之助
46	錬成道場白菊塾の思い出	杉山清太郎
47	敏子との結婚	藤原武志
50	ある大学教授の敗戦日記	大高武夫
59	敗戦後のハルビン生活	杉本保之助
64	その時私は	杉山清太郎
66	マンドリン銃	中郷三己枝
69	兵どもの夢のあと	中郷三己枝
71	敗戦後の新京で(一)	那須道子
73	敗戦後の新京で(二)	那須道子
76	神の加護(一)	藤原武志
78	食べそこなったオトウフ	片岡靖子
79	戦後満州逆上陸潜行記	杉田昇
83	難民救済に挺身した二人	滝川游軒
88	遥かなる母国の民よ	山本寿雄
91	ゴエン	片尾正子
95	引揚後の私(一)	佐上静夫
96	シベリヤ抑留画展	椋代孝

99	孤児達に想う	島田利導
100	孤児に一時帰国の夢を	小西方一
100	戦争のない世の中を	稗田千代子
101	特攻隊	林義正
102	若き日の友情	猪木金人
102	エジプト・フランスの旅	田辺三郎
105	旧婚旅行	山本雄吉
107	掃墓	酒井義雄
109	夏に思う	数枝木寛
112	悠久の大地	岡崎嘉平太
113	ふりかえると見えるもの	山際満寿一
114	満州における民族の興亡（一）	
114	歴史以前から清王朝の成立まで	
118	ハルビン（一）	
118	その歴史	
121	ハルビン市街図	
124	ごあいさつ	村岡英一
125	編集を終えて	椋代孝
126	会員名簿	
	協賛広告	

vol. 13（1988年11月発行）		
頁	記事名	筆者
	目次	
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会年表	
9	昭和62年度会計報告	
10	会長の交代について	村岡英一
13	生けるゆいごん	村岡英一
20	「北方四島」地図ミッション訪欧記	木村睦男
24	北方領土地図ミッション・木村睦男団長に聞く	池田進治

30	ハルビンの思い出（二）	杉本保之助
38	ハルビンの思い出（三）	杉本保之助
49	奉山線の複線化突貫工事	数枝木寛
51	兄の死	杉山清太郎
58	監視兵	中郷三己枝
60	敗戦後のハルビン生活（二）	杉本保之助
68	ハルビンからの引揚	杉本保之助
75	内地に帰るまではと耐えた日々	片岡靖子
76	「鉄西」での思い出	那須道子
77	コスモス	尾原繁
78	私の記録	竹内幸郎
82	シルクロードを旅して	山本寿雄
86	国際交流サマーキャンプに参加して。	片尾正子
87	エジプトの歴史を撮る移動研究室	田辺三郎
91	うっかり騒動二題	那須道子
94	暮らしの中に安らぎを	大高武夫
94	シベリヤ抑留画展	椋代孝
100	坂口遼氏の死を悼む	杉山清太郎
104	満州における民族の興亡（二）	
106	ハルビン（二）	
111	会員名簿	
	協賛広告	

vol. 14（1989年11月発行）		
頁	記事名	筆者
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会年表	
9	平成元年度会計報告	
10	会長交替について	数枝木寛
10	その後の動静ご報告	村岡英一
12	本誌前号（昭和六十三年度版）の正誤	

14	ハルビンの思い出（四） 栄光時代	杉本保之助
35	ハルビンの思い出（五） 栄光時代	杉本保之助
52	激動の青年時代	田辺三郎
54	機会	中郷三己枝
56	軍用貨車	中郷三己枝
57	ハルビンの惨状	田中多七
58	死線を越えて	立岡皓男
63	戦後八年を中国に生きて（一）	堀民雄
66	昭和時代を偲ぶ	数枝木寛
72	木村元参院議長を慰労する会に出席して	杉山清太郎
73	雑感	長尾喜久治
76	「我が心のハルビン」の自費出版	大高武夫
79	お寺の庭掃除	那須道子
81	私の思い	小西方一
82	きらめく北斗星の下に	椋代孝
88	満州における民族の興亡（三）	
90	満州における民族の興亡（四）	
90	日露戦争と満州の荒廃	
97	ハルビン三つの話	浜野健三郎
99	哈爾濱ニ於ケル救済資金、寄託金借入募集ニ関スル経緯	哈爾濱日本人民会
107	昭和13年（康德5年）元旦新年名刺交換会名簿	哈爾濱日本人民会
108	会員名簿	
	協賛広告	

vol. 15（1990年11月発行）		
頁	記事名	筆者
	目次	
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会役員名簿	
4	岡山ハルビン会年表（平成元年度）	
4	（財）中国残留孤児援護基金からの礼状	

5	山陽新聞夕刊（平成二、二、二十付）記事	
6	平成2年度会計報告	
7	ハルビンの思い出（六） 栄光時代	杉本保之助
28	チチハル	中郷三己枝
31	戦後八年を中国に生きて（二）	堀民雄
34	「老万会」の友の思い出	杉山清太郎
38	終戦の日に思う	数枝木寛
38	中国から帰った家族	
42	百働会について	大高武夫
46	満洲における民族の興亡（四）	
51	開拓団	堀川正三郎・大林作三
53	ハルビン市商店街復元地図	杉本公子
63	会員名簿	
	協賛広告	

vol. 16（1991年11月発行）		
頁	記事名	筆者
	目次	
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会役員名簿	
4	岡山ハルビン会年表（平成二年度）	
5	山陽新聞記事（平成二年十二月十三日夕刊）・中国孤児救護 訴え募金	
7	平成2年度会計報告	
10	ハルビンの思い出（七）	杉本保之助
24	関特演（関東軍特別大演習）	島田俊孝
29	満州点描	数枝木寛
32	戦場の空に浮かぶ母の顔	立関皓男
33	小盗児小孩	中御三己枝
43	戦後八年を中国に生きて（三）	堀民雄
47	朝鮮戦争	平松茂雄

50	生きていたイツム	竹内幸郎
51	復員余話	立関皓男
53	化粧クリーム奇談	林義正
54	満蒙開拓青少年義勇軍	
57	資料 引揚港「舞鶴」	舞鶴市
61	私の生い立ち	田辺三郎
64	満洲における民族の興亡（五）	
71	会員名簿	
	協賛広告	

vol. 17 (1992年11月発行)		
頁	記事名	筆者
	目次	
6	岡山ハルビン会設立の趣旨	
7	岡山ハルビン会会則	
7	岡山ハルビン会役員名簿	
8	岡山ハルビン会年表（平成三年度）	
9	山陽新聞記事（平成3.10.2）・岡山ハルビン会平成3年度総会写真	
10	厚生大臣感謝状贈呈式写真・帰国者友の会歓迎会写真	
11	平成3年度会計報告	
14	ハルビンの思い出（八）	杉本保之助
36	回想 満洲	堀田重忠
48	戦後八年を中国に生きて（四）	堀民雄
56	後勤要員としての女子挺身隊	藤沼清
57	シベリヤ抑留記	立岡皓男
64	中国残留孤児	細江信義
67	引揚記念館に思うこと	木船律也
68	愛国婦人会	八木稔
70	大同学院	藤川宥二
74	満洲における民族の興亡（六）	
78	会員名簿	

	協賛広告	
--	------	--

vol. 18 (1993年11月発行)		
頁	記事名	筆者
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会役員名簿	
4	岡山ハルビン年表 (平成四年度)	
6	平成4年度会計報告	
8	ハルビンの思い出 (九)	杉本保之助
26	回想 満州 (二)	堀田重忠
59	綏化から新京へ	那須道子
61	興南収容所 (北朝鮮)	中郷三己枝
64	戦後八年を中国に生きて (五)	堀民雄
68	シベリヤ抑留記 (二)	立岡皓男
74	「帰ってきたイツム」	竹内幸郎
76	我が心の「満州」を訪ねて	椋代孝
86	満州慢々の	西島武郎
94	満洲問題の歴史 (序文)	伊東六十次郎
99	会員名簿	
	協賛広告	
	奥付	

vol. 19 (1994年11月発行)		
頁	記事名	筆者
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
3	岡山ハルビン会会則	
3	岡山ハルビン会役員名簿 (平成二年度改選)	
4	岡山ハルビン会年表 (平成五年度)	
6	「中国残留婦人の帰国を実現する市民の会」義援金の報告	
7	平成6年4月2日 花見土曜会の報告	
8	田川&さとう宗幸 コンサートのお知らせ	

9	平成5年度会計報告	
12	ハルビンの思い出(一〇)	杉本保之助
30	北満「鶴岡」からの逃避行	那須道子
37	戦後のハルビン民留民	三上賢一
40	終戦時のハルビン	大門緑
41	卡子(チャーズ) 長春の飢餓地獄	遠藤誉
48	通化事件 「曠野の女将軍」から抜粋	中郷三己枝
73	通化事件 解説	池田皓
80	今こそ東京裁判を裁く時	
82	東京裁判を裁く	瀧川政次郎
100	満州事情	南満洲中等教育研究会
104	思い出の写真	杉本保之助
	協賛広告	
	奥付	

vol.20 (1995年11月発行)		
頁	記事名	筆者
2	岡山ハルビン会	
2	岡山ハルビン会設立の趣旨	
4	岡山ハルビン会会則	
5	岡山ハルビン会年表	
12	平成6年度年表	
13	写真3枚	
14	平成6年度会計報告	
15	平成六年度役員名簿	
15	会員名簿	
22	八十余年の我が生涯	杉本保之助
35	母さん、ありがとう	那須道子
36	死線を越えて	吉崎省子
53	ああ、遥かなり「牡丹江」	立岡皓男
68	必救一念石	椋代孝
70	年譜「引揚運動の父 大木英一 翁」	

73	朝鮮人従軍慰安婦問題に関するマスコミの報道について	棕代孝
78	大東亜戦争の原因と経過	鄭春河
91	太陽を背にして	佐藤和男
94	「真珠を捨てた豚」にならないために	名越二荒之助
98	戦後のアジア	ジョン・トーランド
99	台湾 高砂義勇隊	門脇朝秀
106	総目次	
121	廃刊の言葉	棕代孝
	協賛広告	
	奥付	